

# 個性、感性、二本脚



自然科学研究機構 分子科学研究所  
所長 中村 宏樹 氏

「個性」が発揮され実りある成果に結実していく過程では、「感性」が重要な役割をします。「感性」を磨き育てることも教育の重要な役割です。そして、感性にも多様性があることに留意しなくてはなりません。同じことでも「感じる」人と「感じない」人がいるからです。間違った「個人主義」と混同することなく、「個性を見出し伸ばし、感性を養う」ことこそが、教育の永遠かつ不断に



取り組むべき課題だろうと思います。溢れた情報の中から「正しい知識」を取り入れ、それを「知恵」とし、「創造」へと導いていくことが肝要です。そこでは、「真・善・美」の意識を、さらにその上にある「妙」の意識を養うことが大事です。新世紀における日本の発展にとっては、「西洋かぶれ」から脱却し、西洋流の「合理主義」に加えて「自然との一体性」を基本とする「東洋思想・哲学」を身に付け、その二本脚の上にしつかりと立った人間を育てること

残念ながら、最近の多くの奇妙なことを言う前に、基本的「倫理性」をまず、議論しなくてはいけないのかもしれない。いろいろな要因（それこそ食べ物の影響までも）があると思われまますから、これはぜひ、様々な分野の専門家を一堂に会した全国的事業として解明の努力をしてもらいたいものです。

(なかむら ひろき)

## 教育随想



平成16年12月1日

# 12月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

教育随想	1
自然科学研究機構 分子科学研究所 所長 中村 宏樹氏	
この人に聞く	2
元岡崎工業高校野球部監督 大見 進氏	
羅針盤	2
東海中学校長 菅沼 剛	
ふれあい	3
岡崎小 原田 雅文	
特集	4
教員研修 —中核市岡崎の取組—	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー	8
初めての卒業式(昭和53年)	
この本を	8

# この人に聞く

ふるさとシリーズ



イヤー・オブ・ザ・コーチ

元岡崎工業高校野球部監督

大見 進 氏

この夏、甲子園球場で「イヤー・オブ・ザ・コーチ」を受賞された大見さん。長年、高校野球の発展と子供の健やかな成長に貢献してきたことが認められた。

「高校時代、指導者のいない野球部で一度も勝てず惨めな思いをしました。それが指導者になろうと決意したきっかけです。それから教師を目指して猛勉強しました。」

野球を教える前に生徒も親も集めて、まず礼儀と学習の大切さを熱心に説かれたという。



に説かれたという。

「精神面が成長しないと野球はうまくなりません。途中で必ず来るスランプになったとき、自分で立ち直れないんです。エラーは集中力が続かなくなってきたときに出来ます。その訓練は、試合の時間と同じだけ机に向かうことでも補えます。」

あと一歩で甲子園出場に届かず自分の指導法に迷いを感じたとき、自ら生徒と向き合われた。

「間髪入れない千本のノックより、数は少なくても一本ごとにいいところや悪いところを指摘してもらえぬノックを受けたいです」というキャプテンの言葉を聞いて、目が覚めました。単なる自己満足で練習を組んできた自分が恥ずかしくなりました。この対話がなかったら、岡崎工業高校で二度も甲子園出場を果たすことはできなかったと思います。」

教師として歩んできた道を振り返りながら、さらに経験を語られる。

「教師と生徒のレベルが違うの、ぐいぐい引つ張るだけの指導では生徒はなかなか上達しません。指導者は、双方が納得する理にかなった練習方法を勉強しなくてはだめですね。指導者が進歩しなければ、生徒も進歩しません。それは、野球に限らず授業でも同じことです。」

「試合で負けると非難されてつらいことも多いが、それ以上にやりがいがありますね。野球指導だけでなく、人間教育をして社会に送り出すという責任感がありましたから、生徒が技術的にも人間的にも成長していくのは本当にうれしいことでした。だから野球監督はやめられません。」

教職を離れた現在も、毎週土・日曜日には少年野球クラブのコーチとしてグラウンドに立たれている。子供だけでなく若い指導者も育て続ける大見さんが、熱く思いを語られた。

「子供には夢を大きく持つてほしいですね。夢に向かって精一杯にやることが。これが子供たちの成長につながると思います。ただ、その夢を持たせることは大人の責任です。」

氏名 おおみ すずむ  
生年月日 昭和十年二月四日  
住所 安城市新明町二十三十九



## 教材研究

東海中学校長 菅沼 剛

「このごろ理科を嫌う子供が多くなったという話をよく聞きます。そういうことを聞くと、第一に僕が聞きたいのは、その理科を教えている先生自身が理科を好きですか、面白いと思っていますか、ということ。これはノーベル物理学賞の小柴先生の講演の一節です。」

わたしたち教師は、このことについて真剣に考えてみなければなりません。小学校では一人で全教科を教えるわけですから、このことは大変難しいことです。

対応策として、自分の苦手な分野の教材研究に力を入れることです。

教材研究を進める中で、教師自身が興味を持つことができればいいものです。教材研究の手法はいろいろ考えられます。素材・題材の決定、子供の実態に合わせた展開の工夫、



## 二人の我慢

岡崎小 原田 雅文

「先生、またA男がみんなに変なことしてくる。」

六年生が楽しみにしている修学旅行が近づいた音楽の交流授業のことである。A男は、三組の中では中心的存在だが、普通学級との交流授業では周りの子の関心を引きたいのか、甘えたいのか、なんだかんだといろいろないたずらをしてくる。

修学旅行での班決めをした。A男のいたずらが原因だろうか、A男と一緒にの班にはなりたくないという雰囲気が強く感じられた。中には「絶対に同じ班は嫌だ」とまで言う児童が二人いた。その一人がB男である。A男とB男は性格的に似たところがあり、A男はそこに親しみを覚えているのだが、B男にはそれが気に入らないらしい。

この問題について、時間をかけて話し合った。最終的にはA男に班を

選ばせようということになった。するとA男は、なんと絶対に嫌だと言っていたB男のいる班を選んだ。むくれているB男に、

「A男はお前を頼りにしているんだよ。」

と声をかけると、

「A男がいたずらしないと約束するのだったらいいよ。」

しぶしぶといった様子で承諾した。

修学旅行当日。どうやら上手くやっているようだと思っていた。ところが、奈良へ向かう近鉄電車の中でB男が、「いたずらしないと自分のA男がいたずらした。自分はどうしていいのか分からない」と言い出した。それに対してA男は、「ごめんね、ごめんね、もうやらなから。ごめんね、ごめんね」と謝り続けている。B男はどうしても許せないと言いつ張る。

「なあB男。A男はたくさん友達の中からお前を選んだ。お前のごとが好きなんだよ。好きな人に許してもらえないのはつらいだろうな。」

そつと言うと、B男は、「もういいよ」と、向こうを向いたまま言った。いろいろと心配をした二日間だが、無事に過ごすことができた。出来上がった旅行の写真を見ても、班で仲良く写っている。

ところが、学校ではまたA男がいたずらをしました。今回は、どうやらB男に集中しているらしい。B男は、「我慢の限界だ」と言い出した。お互いの担任を交えて四人で話し合った。三組の担任が、A男に反省させる意味で、「しばらくは、B男に絶対近づかないし、話もしないようにしたら」とA男に言った。A男は、「我慢する」と答えた。

発問、板書計画等。これらの具体的な教材研究が、とても大切であることはいうまでもありません。少し視点を変え、もう少し大きな意味の教材研究を大切にしたいと思います。わたしは今までに何回か理科部の県外研修に参加しました。秩父・長瀨ながたの変成岩の観察、北海道のアンモナイトの観察採集、根尾谷断層の観察、雲仙普賢岳の火山活動の観察、三宅島の火山活動の観察、対馬の動植物の観察、石垣島・西表島の動植物の観察等々。それぞれの研修地では当初の目的以外にもその土地の歴史・風土・人情など多くのことを学びました。

B男は、ただ黙って聞いていた。それから数日後、約束を守って姿を現さないA男を心配して、用もないのに三組の教室の前をうろうろするB男の姿があった。

また、市内で各種の研修会にも参加しました。流星の観察会、惑星観察会、秋の虫の音を聞く会、トンボの観察会、岡崎の化石採集会、鷹の観察会等々。

これらの会に参加して、具体的な教材研究とは違った意味での成果が多くありました。自然に接することの大切さを感じ取ることです。いろいろな会に出るたびに自分の自然に対する知識の甘さを痛感しました。

理科の例を示しましたが、どの教科でも同じことが言えます。広く浅くではなく、少しでも広く深い知識と教養を身につけたいものです。





▲ 小さなアルファベットの文字型をピンセットでつまんで英単語作り  
(H16年度海外研修・ドイツ)

# 教員研修

## —中核市岡崎の取組—

「指導性」と「専門性」と「人間性」。教師として、心豊かでたくましい子供たちを育てるために、常に磨き続けるものである。教員研修は、これらの一層の向上を目指して行われる。

岡崎市は、昨年度中核市になったことで、市独自の研修を行える機会が増えた。同時に、その責任も重くなったといえる。

現在、市で行われている教員研修には、大きく分けて、基本研修、職務研修、課題研修、自主研修の四つがある。

自主研修の海外研修は、他国の教育制度や教育課程などを調査・研究し、今後の岡崎の教育に新しい風を吹き込むことが期待されている。また、昨年度から実施された社会体験型教員研修は、違った職業の体験を通して見聞を広め、さらに広い視野に立って、子供たちの指導に取り組むことができるようにとの目的がある。

初任者からベテランまでを対象に、様々な研修が行われているが、どの研修も子供たちの人間形成を根本に置いて行われている。

教師は、未来を担う子供たちを育てている。だからこそ、自分自身を高める努力を忘れてはならない。「教育は人なり」である。



▲ 粘土の制作講座 (教科・領域基礎研修)



▲ ごみ収集体験 (初任者研修)





▲ イオン岡崎ショッピングセンター内で職場体験（社会体験型教員研修）▲



▲ 栄養についての研修（新任給食主任会）

**岡崎市の教員研修**

基本研修	初任者研修 5年経験者研修 10年経験者研修
職務研修	新任校長・新任教頭研修 新任教務主任研修 新任保健主事・新任給食主任研修 特別支援教育研修
課題研修	教科・領域基礎研修
自主研修	県外研修・滞在研修・派遣研修 海外研修 社会体験型教員研修



▲ 外部講師を招いた餃子を作る授業を参観（派遣研修・愛知教育大学）



▲ 持久走の授業を参観（県外研修・広島）



▲ 発展学習を重視した数学の授業を参観（滞在研修・秋田，岩手）



▲ 現地校を訪れて授業参観（H15年度海外研修・フィンランド）



岡崎市教育委員決定

- 委員長 鈴木 聰一(前列左)
- 同職務 大原 憲一(前列右)
- 代理者
- 委員 仲井 さち(後列右)
- 委員 寺部 暁(後列左)
- 教育長 藤井 孝弘(後列中央)



●教育最新情報

○免許状の種類

免許状の種類は多種あるが、主として有しているのは、「教諭普通免許状」の「専修」「二種」「三種」の三段階である。

○小・中の一級免許取得

平成十六年度四月から十一月までの免許に関する申請は、市内で三十件。認定講習の応募者は幼・小・中を合わ

せて、一〇二名にのぼった。

免許法改正により、二種免許状のみの教員については、

一種免許状の取得義務が課せられたこともあり、単位修得に高い関心が寄せられている。

現在、隣接校種(小学校教員なら幼稚園と中学校)の免許取得においても、優遇措置がとられているので、ぜひ、小・中の両免を取得するようにしてほしい。なお、単位修

得の方法は、大学院・大学・短大で所定の単位を修得する方法と、認定講習等で単位を修得して上進する方法がある。

○免許状の申請

免許状の申請には、主に次の四つが挙げられる。

- ①上位免許状の申請
  - ②他教科の免許状の申請
  - ③特殊学校免許状の申請
  - ④隣接校種の免許状の申請
- 在職年数に応じて、必要単位数が通減されたり、教育実習が免除されたりしている。
- ※①については、年度内に免許状を希望される方は十二月九日までに提出。
  - ※②③④についても、年度内に免許状を希望される方は、一月末までに提出。

○栄養教諭普通免許状の創設

平成十六年十月五日より、免許法等の一部改正に伴い、創設された。在職年数と単位修得により、学校栄養職員から栄養教諭への移行措置もある。

○愛知県教育職員免許法認定講習

講座数は、二十五講座  
・講座数は、二十五講座  
・一講座当たり一単位  
・講座日は、八月の指定日  
※詳しくは、岡崎市教育委員  
会学校指導課 免許担当までご連絡ください。

●少年自然の家だより

○虫の音を聞く夕べ

九月十八日(土)、本年度新たに企画した「虫の音を聞く夕べ」を開催した。当日は、幼児から中学生を含めた九家族三十人が参加した。

鈴木栄二先生を講師に迎えて、この季節に聞くことのできる秋の虫についての話を聞き、さらに、スライドを利用して虫の名と特徴、及び鳴き声を紹介された。

その後、暗闇の中で、自分の耳を頼りに虫を探し、採集し観察した。ウマオイやツムシなど六種類の虫を観察できた。参加者は、日ごろなじみのない虫との出会いに感動した様子で、秋の夜を堪能した。



▲ネイチャー芋掘り

○新そばを食べる会

十月二日(土)、安杖康則先生ら二人の講師を迎え、「新そばを食べる会」を実施した。

最初に、講師の先生の職人芸を見て、手際の良い動きに大きな拍手が起きた。それを手本にして、各家族ごとにそば粉をこね、打ち、切り、そして茹で上げた。

きしめんのような太いそばもあったが、自分たちで作った新そばの味は格別で、おいしそうにほおばっていた。

○すぶちネイチャークラブ

十月十六日(土)、雲一つない秋晴れの下、六月のネイチャークラブで畑に植えたサツマイモの収穫を行った。全員で芋掘りを行い、子供たちの顔ほどもある丸い芋や、かぼちゃのような芋など、リヤカーにあふれるほどの芋を掘り起こした。

午後からは、大学芋、鬼まんじゅう、芋のてんぷら、芋のつるを使ったかき揚げなど様々な芋料理を作り、味わった。自ら植え収穫した芋の味は、格別であった。

●表 彰

◆学校給食優良校

文部科学大臣賞 新香山中学校



▲フレンドリーランチ(新香山中)

◆第六回朝日のびのび教育賞

常磐中学校

◆第五十二回全日本吹奏楽コンクール

銀賞 竜海中学校

◆中部日本吹奏楽コンクール

中学校大編成の部 神納杯受賞 竜海中学校

◆第十回日本管楽合奏コンテスト

全国大会 中学校B部門 優秀賞 矢作中学校

◆第五十九回国民体育大会

「彩の国まごころ国体」(埼玉県) 走り幅跳び全国九位 甲山中三年 西 航司

◆高円宮杯第五十六回全日本

中学校英語弁論県大会 最優秀賞 城北中三年 水野 智美

◆中学校英語弁論県大会

※全国大会出場

◆CBCこども音楽コンクール

中部日本決勝大会(本大会)

◎は最優秀賞を受賞し全国大会へ。ほかは優秀賞受賞。

●小学校唱の部

◎矢作南小学校 矢作東小学校

◎大樹寺小学校 三島小学校

●小学校管楽合奏の部

◎竜美丘小学校

●中学校合唱の部

◎六ツ美北中学校 矢作北中学校

●中学校重唱の部

◎六ツ美北中学校 矢作北中学校

●中学校管楽合奏の部

◎岩津中学校

●中学校重奏の部

◎城北中学校

●中学校合奏第一の部

◎城北中学校

◆第五十四回西河中学校駅伝競走大会

男子 優勝 東海中学校

二位 六ツ美中学校

三位 竜海中学校

女子 優勝 六ツ美中学校A

二位 南中学校

◆第十回全日本(U-15)

フットサル大会 県大会

優勝 福岡中学校

◆第十一回県中学校カヌー大会新人戦

男子総合 準優勝 新香山中学校

女子総合 優勝 新香山中学校

◆OKAZAKIまち祭り二〇〇四よきこい三城下町おかざきコンテスト

岡崎市長賞 北中学校

◆第五十四回全国小中学校作文コンクール 県審査

優秀賞 六ツ美南都小二年 長谷川貴之

優秀賞 大門小五年 鈴木 亮矢

◆第二十四回全国中学生入権作文コンテスト 愛知県大会

愛知県入権擁護委員連合会会長賞

常磐中二年 大河原奈月

入選 東海中一年 蒲野 里実

◆第三十二回市小中学生作文コンクール

最優秀賞 羽根小三年 齋藤 実友

東海中一年 森下 真衣

◆愛知県地区 ロボットコンテスト「あの壁を越えろ部門」

優勝 葵 中三年 遠藤 寛士

準優勝 美川中三年 瀬戸 淳史

◆県花いっぱい優良小中学校コンクール

優秀賞(愛知県教育委員会賞)

六ツ美中部小学校

地域花壇賞 六ツ美中部小学校

◆平成十六年フラワー・プラボー・コンクール秋花壇中央審査入賞校

県優良賞 六ツ美中部小学校

県奨励賞 三島小学校

地域花壇優秀賞 細川小学校

上地小学校

学校花壇設計図 中日新聞社賞

六ツ美中部小学校

◆第四十八回愛知県統計クラブコンクール

◎全国入選 ◎全国佳作

◎小学校一年・二年生の部 金賞

光岡諒太郎(小豆坂)

中根 啓(矢作東)

伊藤 綾美(矢作東)

齋藤、福田(六ツ美南都)

●小学校三年・四年生の部 金賞

野澤 魁利(矢作東)

◎岡本 衣美(小豆坂)

都築沙也加(連尺)

岡本 俊幸(竜美丘)

◎都築菜々子(六ツ美南都)

◎小学校五年・六年生の部 金賞

◎志村 知紀(三島)

◎杉浦 加奈(竜美丘)

◎鈴木美菜子(竜美丘)

◎影山 七香(連尺)

◎成瀬(美、成瀬(智)(連尺)

◎中学生の部 金賞

◎植田 美咲(竜海)

◎春名紗季江(北)

◎見並 克俊(竜海)

◎前川 浩隆(新香山)

◎鳥居 千穂(甲山)

●小中学生パソコンの部 金賞

◎柴原耀一(竜美丘小)

寛 清香(竜海中)

◎神野、金内、柴田(北中)

◎細井、中嶋、藤田、工藤(北中)

◎嶺田、尾崎、山口(北中)

※前記以外に、銀賞二名、銅賞二名、奨励賞一名、最優秀している。



▲第52回全日本吹奏楽コンクール(竜海中)

◆全国自作視聴覚教材コンクール

文部科学大臣賞 小学校部門

「日本の灯りを守るー和ろうそく作り」

尾藤広行・山盛誠治・戸井かおり

倉地耕治・河合正浩・松井 久

●優秀賞 小学校部門

「ごみごみ探検隊」

伊藤研治・笠間大樹・川本祐二

河澄 崇・神谷耕一

●優秀賞 中学校部門

「農業の企業化ー小久井農場の挑戦」

福岡吾隆・河合泰宏・岩本隆幸

鈴木 優・内田雅之・高田桃子

●優秀賞 社会教育部門

「ふるさとを醸す酒造り」

横山浩司・村田貴志・伴 巨裕

小林 憲・千賀しのぶ・廣瀬浩司

・カ  
ツ  
ト  
新香山中 金澤一幸

# 初めての卒業式 (昭和53年)

写真提供：城南小学校

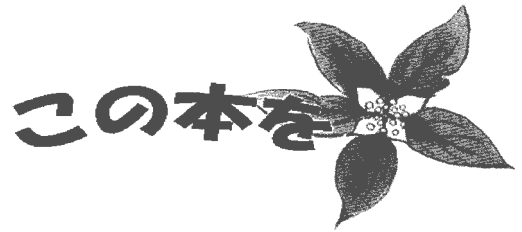
## フォトヒストリー 岡崎の教育



昭和五十二年四月に開校した城南小学校第一回目の卒業式の様子である。まだ体育館がなかった初年度、式場は音楽室で、普通教室を二つ分つなげたくらいの教室であった。

城南小学校は、この後、入国管理法が変わった平成二年から外国籍の児童が増え続け、平成四年第十六回の卒業式で外国籍の児童がはじめて単立した。その後、昨年度までに五十三名の卒業生がいる。

現在四十八名が在籍しているが、近い将来、卒業式の典禮も日本語だけでは間に合わないかもしれない。



### この本を

- \*若林奮ノート 若林 奮 ￥2800  
書肆山田
- \*かけがえのないもの 養老 孟司 ￥735  
白日社
- \*ダ・ヴィンチ・コード (上・下) ダン・ブラウン 各￥1800  
角川書店

- \*マッカーサーの二千年 袖井林二郎 ￥1300  
中央公論新社

歴史に「もし」は許されないが、もしマッカーサー以外の人物が占領軍の最高司令官だったとしたら、日本占領はかなり姿を変えたものになっていたであろう。

占領下の日本に、天皇をしのぐ超越的な権力者として君臨しながら、日本人に愛され、さまざまな改革に成功したマッカーサー。占領された日本人がマッカーサーとGHQに対して50万通のファンレターを送ったといわれている。戦後日本を理解する上で是非読んでおきたい。

大雨を引き起こした台風、頻発した地震。被災地では未だ多くの傷跡を残したまま今年が暮れようとしている。深刻な災害に心が痛む一方で、多くのボランティア活動があることに安堵する。支え合いの中で皆が生きていることを、どんな時にも忘れてはならない。

## シオ スア

シクラメンの香りが冬の始まりを予感させる。重ね着した子供たちが頬を赤らめ、鉛筆を走らせている。窓際に置かれた赤や白、ピンクの色は、陽を受けながら温かさを醸し出している。人の心を温かくする、そんな花のような存在になりたい。

朝日がまぶしいころ、白い息を吐きながら登校する子供の姿がある。昔のように半袖半ズボンの子はあまり見かけないが、外で元氣よく遊ぶ笑顔に変わりはない。

勉強や運動、学校教育で大切なことは山ほどあるが、やはり笑顔が大切。朝日に重なりまぶしく見える。

スポーツ用品店や飲食店、ジーンズショップで慣れない接客に奮闘する。遠い外国で、言葉の壁を超え、現地でなくては分らないものを肌で感じ、より多くのものを持ち帰ろうと努力する。すべては目の前の子供たちのために。研修の目的はいつもそこに返る。